研究の概要

【児童が主体的に取り組む学習活動】

〇淀四スタンダードの構築

・基本的な１単位時間の流れを徹底し、全学年共通の学習の流れを構築した。児童の振り返りを板書して学習意欲を高めたり、ＩＣＴの効果的な活用を行ったりした。

〇対話的・実践的な学習の検証

・授業の視点として、「場の設定の工夫」「聞くこと・読むこと・話すこと・書くことの活動を通したコミュニケーションの充実」を設定し、視点に対応した手だてを位置付けた。

・指導の中心となる語彙や表現を使ったやり取りが、児童が自分たちの生活に関連していると感じるように単元計画を立てた。低学年では、「自分や友達の好きな遊び」のような自分の身近な話題に関する活動、中学年では、「好きな色や形」のように自分や友達の思いを伝え合う活動、高学年では、「おすすめの場所を紹介する」のように、自分の考えを伝え合う活動を行った。低学年では、「聞くこと・話すこと」を中心に、高学年になるに従い、段階的に「読むこと・書くこと」の活動を取り入れた。また、児童が、学習したことを日常生活に生かそうと思うような単元計画の工夫をした。

・新学習指導要領における高学年の授業時数確保を見据え、週当たり「短時間学習（15 分×３回）＋45 分授業」を行った。年度の後半には、「45 分授業×２回」のとして行った。12 月に教員と児童にアンケートを行い、成果と課題を分析した。

【効果的な時間設定や教材の検証】

〇学習したことを児童の日常生活に生かす機会を設けるため、留学生・地域の人との交流や宿泊学習で外国人観光客にインタビューするなどの活用を行い、学習の効果を検証した。

〇児童へのアンケートを基に、児童の実態に応じた単元計画を立て実践・検証した。また、歌やチャンツ、絵本や手遊びなどを単元計画に明記し、その成果と課題を教員間で共有した。

【教員の英語力・指導力向上】

〇５月と 12 月に児童アンケートを実施し、指導の成果と課題を検証したり、児童の実態を把握・分析したりした。また、同時期に、教員アンケートを実施し、教員の外国語に対する意識や実践の成果、課題を把握・分析した。

〇教員が講師となりワークショップを行った。教材紹介や単元計画作成における場の設定などを提案したり、実践の成果や改善点などを共有したりして指導に役立てた。

〇児童の学習の成果を確認（評価）するために、振り返りカードの活用や授業でのＡＬＴとＨＲＴの役割について検証した。

〇協議会では、小グループ討議の時間を設けて全教員が発言する機会を設けた。その後、指導における成果や改善点を全体で検討し課題解決の方法を探った。

【教育環境の充実】

〇英語に親しむために廊下に箱（手を入れられる穴が開いている）を置くとともに、壁面に英語かるたや迷路、イラストを掲示し、日常的に英語に触れるための校内環境整備の充実を図った。

〇単元ごとにファイリングできる棚を設置し、全教員が教材や教具を共有できるようにした。